

Web + ポケットブックで進化し続ける『歯科衛生士パスポート Web』

山口秀紀 Hidenori YAMAGUCHI
日本大学松戸歯学部 歯科医師

近年、歯科衛生士の業務範囲は口腔内の健康管理に留まらず、患者さんの全身の健康や生活の質向上にも大きくかかわるようになってきました。また、日常診療の場面においても高齢者や全身疾患を有する患者さんに対応する機会が増え、安全で質の高い歯科衛生士業務を行うためには、全身管理の知識が不可欠となっています。

しかし、卒前教育で学んだ全身疾患や薬剤の知識だけでは、さまざまな疾患や新しい薬剤への歯科対応に困難が生じることも少なくありません。この問題に対応するため、6年前に『歯科衛生士パスポート + Web（全身疾患医療面接編）』が出版されました。そしてこのたび、内容や構成をさらにバージョンアップし、時代に合わせて Web コンテンツや動画を充実させた『歯科衛生士パスポート Web（全身管理・感染対策・訪問診療）』

を出版しました。

本稿では、『歯科衛生士パスポート Web（全身管理・感染対策・訪問診療）』の特徴を紹介しながら、具体的な内容や使い方を案内します（図1）。

■ チェアサイドですぐに役立つポケットブック

1. 全身疾患・薬剤に関する豊富なコンテンツ

本書の最大の特徴は、目次を見てもわかるように、豊富なコンテンツとわかりやすさにあります。日常臨床で遭遇することの多い全身疾患、薬剤、患者さんが訴えることの多い症状・状態など37項目をまとめました。

チェアサイドで患者さんに確認すべき事項が箇条書きで書かれており、患者さんとの医療面接時にポケットからサッと取り出し、聞き漏れや情報が不足していないかを一目で確認できます。ま

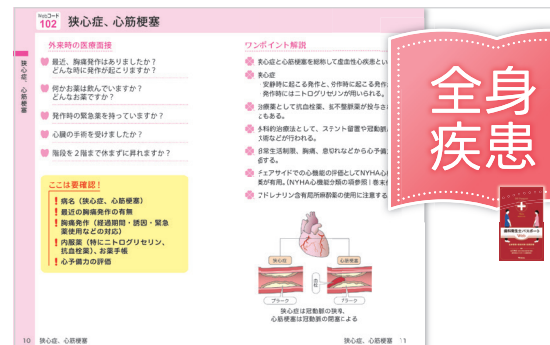


図2a 書籍一全身疾患。左頁で医療面接、右頁でワンポイント解説を確認できる

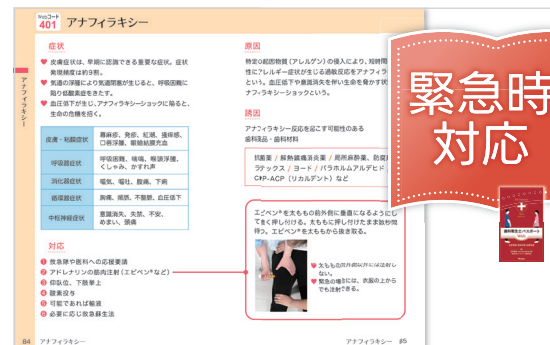


図3 書籍一緊急時対応。緊急時の初期対応が写真付きで確認できるため、ポケットに入れておけば迅速に対応できる

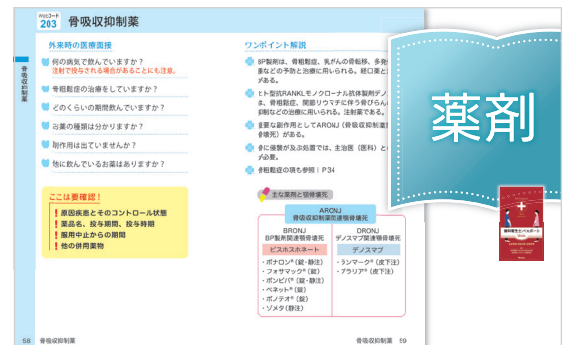


図2b 書籍一薬剤。代表的な薬剤名を掲載。Web では情報が更新される



図4 書籍一訪問診療。Web 上の動画コンテンツと併せて学ぶことで、よりいっそう理解が深まる

た、各項目に記載されているワンポイント解説をみれば、医療面接の目的やその評価について知ることができます（図2）。

さらに、血管迷走神経反射や過換気症候群など、歯科治療中に生じる可能性のある全身的偶発症への初期対応が写真付きで解説されているため、緊急事態発現時にポケットから本書を取り出すことで、迅速な対応が可能となります（図3）。

2. 感染対策や訪問診療のコンテンツもカバー

さらに本書では、歯科衛生士にとって必須の感染対策に関する基礎知識や、訪問診療に携わる歯科衛生士のためのページを設け、幅広い活動のための情報も掲載しました。感染対策や訪問診療に関する情報は、Web サイト上の動画を併せて視聴することで、より深く理解できる仕組みとなっ

ています（図4）。

3. モニタリングや臨床検査の評価も簡単に

書籍の表紙裏には、生体情報モニターの見方を掲載するとともに、巻末には臨床検査値早見シート（主要な臨床検査の基準値、何の検査かを示したものを）を綴じ込み、病院や診療室においてバイタルサインや検査所見の評価をすぐに行えるよう工夫しました（図5）。

■ より詳しく・便利に学べる Web

1. ポケットブック& Web の連携

スマートフォンやパソコンから、「dhpass.com」にアクセスし、本書に記載されたパスワードを入力して登録を完了すれば、いよいよ「歯科衛生士パスポート Web」の世界に突入です。



図1 歯科衛生士パスポート Web（メディア）。豊富なコンテンツが用意されている